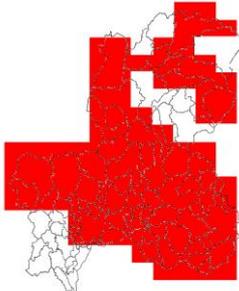


カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i> A. Gray	準絶滅危惧
		ラン科
選定理由	開発による湿地の減少や園芸目的の採取圧がある。	<p>写真(山崎玲子)</p>  
形態の特徴	高さは30-70cm。葉は狭卵形で5-10枚つく。縦筋がはっきりしている。赤味がかった黄色の花を下向きに多数つける。内面に紅紫色の斑点がある。根茎は横に這って、節から根が出る。	
生態的特徴	山地の湿地に生える。	
分布状況	北海道、本州、九州、四国に分布する。岐阜県ではほぼ全県に分布する。	
減少要因	開発による湿地の埋め立てや園芸目的の採取による。	
保全対策	採取の禁止。分布情報を公表しないことが望ましい。	
特記事項	花が柿の果実の色のような綺麗な色である。	
参考文献		

文責:山崎玲子